

荒木山通信

2024年12月

第22号

北房文化遺産
保存会

(文責) 畦田正博

私たちが目指すまち

西の明日香村とは

「西の明日香村づくり」

活動計画策定事業報告

文化遺産保存会

副会長 平城元

令和六年度総会において、今後の活動方針、中期計画等を策定する「西の明日香村づくり活動計画策定事業」が決定しました。

具体的には、私たち保存会は北房の文化遺産を保存・活用・研究すること等によって、

① 近未来の「西の明日香村」北房がどのようなまちになることを望むのかという「ビジョン・目標」の明確化を行い、

② その目指すべき「西の明日香村」北房を創り上げるためには、どのような活動が必要になるのかという「目標達成のための手段・

方策」を検討し、③ その活動を推進していくための具体的計画を「中期計画・年度計画」としてまとめる、というものです。これは、保存会における今後の活動の方向性を決める極めて重要なテーマです。

このため、本事業を推進する「西の明日香村検討委員会」が組織され、畦田会長が委員長となり、検討を開始しました。

まず、上記①・②に関する第一回アンケートを全会員に向けて行い、三六通の回答（回収率四九％）を得ました。その後、寄せられた意見・提案等の全文をまとめました。

そして、このまとめを全会員に送り、他の会員がどのような意見、提案を出しているのかを知ってもらうことで、情報の共有化を図りました。同時に、共感す

る意見・提案、また、ブレインストーミングの他の会員の提案から新たなアイデアを思いつけば、ということでは第二回アンケートも行い、一八通の回答（回収率二五％）を得ました。

会員の皆様からいただいた意見・提案をまとめ、分類するには予想以上に時間を要しました。熱のこもった文章も多く、その中からピックアップすべき部分はあるだけ漏れのないように心がけました。

このアンケート結果をもとに検討委員会で議論を重ねました。その概要を以下に記します。

一、ビジョン（私たちが目指すまち「西の明日香村」については、全体像として「美しい自然の中に歴史ロマンがあふれ、多くのひとが訪れる活気あるまち」です。この全体的雰囲気を出している、より具体的なまちの姿のひとつが、「文化遺産を地域の財産として保存・活用し、次世代へ継承するために努力しているまち」であり、二つ目が「地域

び」と「西の明日香村を体験できる」イベントを継続開催するまち」です。

二、そして、私たちが目指す「西の明日香村」という目標を達成するための手段・方策に関する提案は、大きく七つに分類できました。「情報発信・PR」、「サービ

ス・利便性」、「シンボル」、「イベント」、「保存」、「施設等」、「その他」です。もちろん、それぞれに具体的な提案があり、同じ提案も含めると、合計二五七件になります。

これらの提案は、さらに（i）保存会単独でも実施可能と思われる事業、（ii）他の団体・組織・事業者との連携または要請が必要な事業、（iii）真庭市との連携・真庭市事業（要請）、と三つに区別できます。

このように多岐にわたる提案の採用可否については、何を優先すべきか、ということはもちろんありますが、その他にも、（ア）保存会単独では不可能な事業案の取り扱い、進め方、またはその実現性、（イ）事業予算規模イメージとその事業

費確保の実現可能性、（ウ）実現可能な人的体制（マンパワー）確保が可能か、（エ）実施可能なスキルを持つ人材の有無、（オ）継続的な維持管理が可能か、などの検討が必要になります。

以上のとおり、冒頭で述べた①・②については、ほぼ整理ができました。最後に、来年度以降三年間の中期計画、および中期計画達成のための単年度計画である③を具体化し、令和七年度総会で提案させていただく予定です。

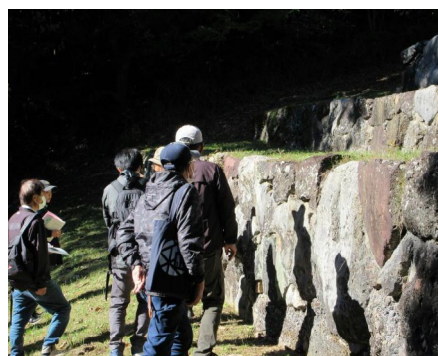
※ブレインストーミング…複数の人が集まって自由にアイデアを出し合い、創造的な発想を促進するための手法。



【西の明日香村検討委員会】

5/15、10/17、11/20、12/20 の4回
開催し検討してきました。

「第四回北房文化遺産ガイド養成講座」 現地研修 大谷一号墳



一月九日（土）、ガイド養成講座の現地研修を大谷一号墳で行いました。講師を含め一二名の参加。

講師は、奥田副会長。駐車場から古墳に至る新万葉の小径から説明は始まりました。旧北房町時代、全国から公募した短歌や俳句の中から選ばれた作品が石に刻まれています。遺跡の詳しい説明だけでなく、見学の人たちに考えさせながらの手法など参考になることが多かったです。また、復元工事の時、中津井小の子

どもたちと石を運んだりした体験なども交えながら、ポイントを的確におさえ、しかも聞く人をあきさせない説明でした。墳丘を上り、石室の中にも入り、環頭大刀等の出土状況なども具体的に知ることができました。最後に平城副会長の補足説明もありました。

その後、文化センターに戻って修了証の授与。晩秋の温かい午前、第一回目の現地研修が終了しました。



撮影者 ▼



〔参加者の感想から〕

（その一部を抜粋しました。）

○ 非常に詳しく説明され良く分かったが同じようにはなかなかできない。資料をもとに基本的なことのみを説明し、質問があれば答えるようにしたい。

○ 説明する場所、その内容、そして時間配分など、実際のガイドでは随分大変であろうと感じた。覚えたことを言うだけではガイドにならず、折角ガイド要請された方たちが満足して帰られるよう、その大役を務めたいと思う。

○ 大谷一号墳のガイドの難しさを感じた。幅広い知識や当時の時代背景から想像する力が必要。今日の講座をスタートとして、これから勉強し学習を深めていきたいと思う。

○ 奥田先生は慣れていた、ので立て板に水だったが、いざ自分となると大変だと感じた。資料を見ながら分かりやすい説明を心がけていきたい。

すげーのー、谷尻遺跡

★岡山県古代吉備文化財センターから出土品の里がえり★

一〇月二六日（土）から一二月七日（土）まで、北房ふるさとセンター開館四〇周年・谷尻遺跡発掘五〇周年を記念して、特別展がふるさとセンターで開かれました。当保存会も主催者（西の明日香村コンソーシアム）の一員として、準備や運営に関わりました。期間中に行われた説明会も当会々員が担当しました。



【説明会】

10/26



11/16

11/24

十一月二四日（日）、北房文化センターで谷尻遺跡発掘特別展の記念講演会を開催しました。講師は、五〇年前の発掘調査担当者高畑友功先生。直接担当された方ならではの苦労や喜びなども交えたお話で、会場場いっばいの参加者も興味深く聞き入っていました。

※ 9・10頁に詳しい講演内容を載せています。



記念講演会

「谷尻遺跡発掘 思い出話」

元古代吉備文化財センター
所長（当時の発掘担当者）
高畑友功 先生



講演中の高畑先生

平安王朝文学アラカルト (一)

◎ 平安の幕開け 古今和歌集

◎ 源氏物語

◎ 恋と歌に生きた平安の美女

戸村 彰孝

恋と歌に生きた

平安の美女

田辺聖子に「小倉百人一首」という作品がある。その中に19番伊勢の解説で興味深い指摘をしているのが眼に止まった。

「王朝の女流歌人で、恋に生き、歌に生きた人という、小野小町や和泉式部がまず思い浮かぶが、この伊勢もそれに劣らぬ、ドラマチックな人生を生きた才媛であった。」

平安から鎌倉時代に生きた新古今和歌集の撰者、幽玄派の歌人藤原定家が撰んだ百人一首から彼女たちの名歌を探ってみよう。

○ 小野小町

花のいろはうつりにけり
ないたづらに
我が身よにふるながめせ
しに

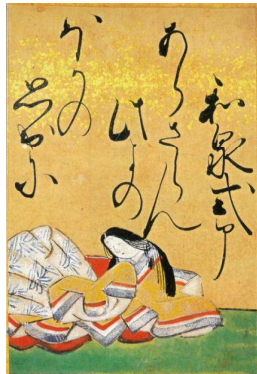
○ 伊勢

難波がたみじかきあしの
ふしのまも
あはでこの世を過してよ

とや

○ 和泉式部

あらざらむこの世のほか
の想ひ出に
今ひとたびの逢ふことも
がな



古今和歌集

- ・九〇五又は九一四頃成る
- 伊勢十九首 小野小町十首
- 拾遺和歌集
- ・一〇〇五〜一〇〇七成る
- 伊勢十七首
- 千載和歌集
- ・一一八七成る
- 和泉式部十五首
- 新古今和歌集
- ・一二〇五成る
- 伊勢十二首 小野小町五首
- 和泉式部十八首

「萬葉集」から見た古代 (二)

一文字で書くー

三輪 能章

古墳時代の五世紀後期に、日本で初めて漢字を言語記号として使った刀剣が出土していることは、前号に書きました。

その「国宝、埼玉県稲荷山古墳鉄剣」に金象嵌で彫られた、表五十七文字、裏五十八文字、全一一五文字の銘文を見てみましょう。
(太字は固有名詞です。)

表「辛亥年七月中記平獲居臣上祖名意富比埜其兒多加利足尼其兒名豆已加利獲居其兒名多加坡次獲居其兒名多沙鬼獲居其兒名半豆比」

裏「其兒名加差坡余其兒名平獲居臣世々為杖刀人首奉事来至今獲加多支鹵大王寺在斯鬼宮時吾左治天下令作此百鍊利刀記吾奉事根源也」

表の読み

「辛亥年七月中記す、オワケ臣上祖、名オホヒコ、其兒タカリ足尼(スクネ)、其兒名テヨカリワケ 其兒名タカヒシワケ 其兒名タサキワケ 其兒名ハテヒ」

裏の読み

「其兒名カサハヨ 其兒名オワケ臣 世々杖刀人の首と為り 奉事し来り今に至る」



るワカタケル大王の寺シキの宮に在る時 吾 天下を佐治す 此の百鍊の利刀を作らしめ 吾が奉事の根源を記す也」

辛亥年(西暦四七一年)七月中に記す、オワケ臣が、始祖「オホヒコ」からの代々七人の系譜と「ワカタケル大王」に杖刀人(じょうとうじん)の首(おびと)と

隊長として(大和の)「シキの宮」磯城宮で奉仕したこと、そしてこの百鍊の利刀(呪霊力のある刀)を作らせ、先祖から奉事したことを記す、としています。

同時代の熊本県江田船山古墳出土鉄剣にも、銀象嵌で稲荷山古墳鉄剣と同じように「ワカタケル大王」の名が彫られています。「ワカタケル」は雄略天皇のことと、倭の五王「武」とさわれています。この雄略天皇が吉備・出雲などの有力地方勢力を制し、大和王権を確立した英雄とされています。

さて、これらの固有名詞は、上古中国語音で借音されていますが、表記方法は朝鮮半島の固有名詞表記方法です。共通している日本

語表記の原型といえます。同じ表記方法で書かれた江田船山古墳鉄剣には、銘文を書いた「張安」という渡来人の名と、作刀者の名「伊多^タ」も彫られています。

両鉄剣は渡来人技術集団が五世紀後期に漢字を使つて、日本語の固有名詞を表記していたことが確認できます。そして埼玉県と熊本県で同じ雄略天皇の名が刻まれた大刀が出土していることは王権の及ぶ範囲を示しています。

五世紀前半？応神天皇の時代に、百済の王仁が「論語」と「千字文」を献上したことが記紀に載っています。これらの「漢籍」を読めたのは、四世紀頃から高句麗の南進によって百済・新羅から日本に渡来した知識人達とその子孫です。その後、帰化した彼らは五世紀には大和王権の管理下に置かれていたといわれます。そして六世紀、仏教公伝（五三八年）によって多くの経典と漢籍が日本に入ります。

当初経典はインドのサンスクリット語（梵語）で書かれ、東アジアに広まって

いました。その後、紀元一〜二世紀頃の後漢時代に中国で始まった漢字（呉音）表記の音訳経典が百済から日本に伝わったのです。大和朝廷は仏教を奨励し漢籍の読解を推進しました。

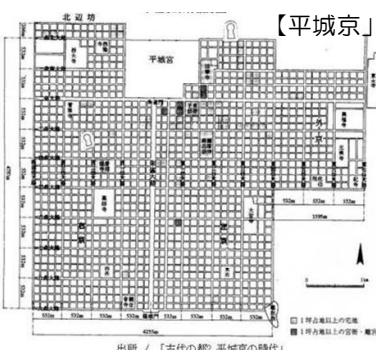
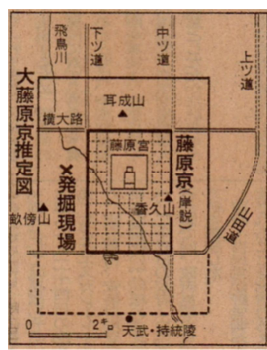
仏経典は音読みです。このことが日本語表記に生かされます。漢字一音一字が基本ですから、漢字の意味より発音に合う漢字を使つて書けます。そして萬葉仮名として整理され発展します。七世紀には訓読音も使われ始め、漢籍から漢字本来の意味を知ると知識人が漢詩を作ります。

さらに各地に寺院が建立され僧侶が経典を読誦し、役人も文字知識を持つて地方の拠点に派遣されます。一気に初期の日本の文字文化が広がるのです。

そして中国中原の最新文化が入ってくるのは、第七回（七〇四年）遣唐使だと思われまふ。それ迄は、朝鮮三国時代、白村江の戦、また難破もあり順調ではなかったようです。しかしようやく唐の先進文化を持ち帰ることができました。平城京遷都（七一〇年）

はその良い例です。藤原京は内裏を中央に配置した時代遅れの都でした。平城京は内裏・大極殿を北に置いています。これは唐の都（長安）に倣った都城です。同時に律令国家の完成となり、飛鳥時代（白鳳文化）は終わりを迎えます。遣唐使による中国中原との往来は、奈良時代の天平文化となつて花開き、平安時代へと続きます。

今回は、萬葉集から古代の生活を見てみましょう。



御領古墳群 ③

倉敷市

山崎 弘大（中三）

4 奈良原古墳群

奈良原古墳群は、御領古墳群に所在する、一〇基（うち消滅一）からなる古墳群です。岡山県との県境に位置し、西山古墳群、銀山谷古墳群という岡山県の古墳群のほうが近いです。

この古墳群の最大の特徴は、飛鳥時代につくられた「終末期古墳」かも知れない古墳が分布していることです。

例えば、古墳群最西に二基並んで存在する奈良原七号墳、八号墳はその一例です。終末期古墳らしい整美な石室を持ちますが、石取りの被害にあい、奥壁付近しか現存しません。

しかし、丁寧に整えられた石材からは古代人の心意気がしみじみと感じられます。まさに、「ミニ大谷一号墳」です。

この外にも「違った意味で」面白い古墳があります。奈良原二号墳は、奈良原神社の参道に所在する古墳で

す。「参道に」あるんです。参道脇ではありません。

「参道に」です。

種明かしをします。参道に石室が埋まっているんです。天井石を失い、埋没した石室の上を参道が通っているんです。ぎりぎり露出している側壁の石のみが古墳の存在を伝えています。

この古墳群には、古墳を巡る遊歩道が整備されており、見学も容易です。また、今回紹介した以外にもおもしろい古墳がたくさんあるので、ぜひ見学に行かれてみてください。

5 上御領中組古墳群

上御領中組古墳群は、前回紹介した張田古墳群の西に少し離れて所在する古墳群で、横穴式石室墳等六〇基以上が確認されています。今回はその中から四基の古墳を紹介します。

上御領宮地古墳は、古墳群の北寄りに所在する「弥生時代の方形墳丘墓です。」

古墳群中で最も古く、規模は二五m×一五mを誇ります。方形墳丘墓としては広島県内でも有数の規模です。また、もっと大きな墳丘規

模となる可能性もあり、今後の展開に期待です。



【上御領四〇号墳】

上御領四〇号墳は古墳群の中央付近に位置する横穴式石室墳です。長さ八・二mの無袖式石室をもっています。石室に使われている石材は綺麗に整えられていたり、奥壁が一枚岩だったりと、古墳時代の終わり頃の築造です。石室内に入ると石の大きさに圧倒されます。

鳴岩古墳は、四〇号墳の北に位置する古墳で、崩壊した横穴式石室がむき出しで残っています。この古墳の最大の特徴は、「カンカン石」と呼ばれる、叩くと鈍い金属音が鳴る花崗岩を用いていることです。この石は御領地区の外れでしか算出しないため、わざわざ



【鳴岩古墳】

ぎ運んできているのだそうです。この外にもいくつかの古墳からカンカン石が見つかっています。

これらの古墳は、遊歩道（現在一部立ち入り禁止）も整備されており、地元では大切に扱われています。紹介しきれなかった古墳もたくさんありますので、機会があれば訪問をおすすめします。

6 八畳岩古墳群

続いて、八畳岩古墳群です。上御領中組古墳群の西に散らばって所在する一〇基弱の古墳の総称です。

近年、二基の古墳と二地点の古墳の可能性がある岩が見つかりました。

特筆すべき点としては、この古墳群の北側、名前の

由来ともなった「八畳岩」周辺には古墳がないことが挙げられます。八畳岩は奇岩群として知られており、現在でも信仰の対象となっています。もしかしたら古墳時代から磐座として崇拜されていたのかも知れません。

なお、この古墳群は山深い場所にあるため、探索には注意が必要です。

7 上御領下組古墳群

上御領下組古墳群は、八畳岩古墳群の西の二つの尾根に分布する古墳群で、三〇基程度の横穴式石室墳からなります。そのほとんどは崩壊しており、言われなければ古墳と気づけません。しかし、この古墳には一つの「売り」があります。それは、**異常なまでに密集**しているということです。

古墳群の中ほどの植林地に「古墳の丘」と呼ばれる地区があります。ここには一五基の古墳が密集しているのですが、あちらを見ても古墳、こっちを見ても古墳、足元の石も古墳というふう

に本当に密集しています。中でも一番原形を保つ一七号墳は、残存長四・四mと小型ながら、『御領の石舞台』といった様相で、独特の威厳を放っています。

現在、「古墳の丘」では下草や植林された木が繁茂し、全体は見通し辛くなりましたが、それでも古墳の多さには圧倒されます。駐車場等も整備され、見学は容易なのでぜひ見学に行かれてみてください。

前方後方墳雑感

行田 裕美

去る七月二八日に北房文化センターで開催された「第三回北房文化遺産ガイド養成講座」に参加させて

いただいた。当日は真庭市教育委員会の新谷俊典課長補佐の講演後の質疑応答で前方後方墳に関するものがあつた。そこで、自分なりに漠然と抱いている前方後方墳感について記してみたと思う。

国内で古墳は三世紀後半から七世紀までの約三五〇年の間に、前方後円墳約四二〇〇基、帆立貝形古墳約五〇〇基、前方後方墳約五〇〇基に円墳、方墳などを



【上御領下組17号墳】

加えた総数約一六万基が築かれたとされている。前方後方墳約五〇〇基の内、そのほとんどは三世紀から四世紀前半に築造されたものである。

そもそも前方後方という形状は、前方後円墳が登場する以前、すなわち弥生時代東国における墓制の中で生まれたものである。例えば、岡山県では楯築遺跡のように円形に対向する方形張り出し部が接続した双方中円形のものの、出雲を中心とした地域では方形の四隅が突出した四隅突出形のものなども前方後方と同じように弥生時代のそれぞれの地域の中で誕生した墳墓の形態である。

前方後方形の墓には、周溝だけで高塚を持たないものと高塚を持つものがある。前者の高塚を持たないものは弥生時代の墓制としての形態、後者の高塚を伴うものは古墳としての前方後方墳である。

東国では三世紀後半から四世紀初頭の時期に突然前方後方墳が出現する。これはそれまでに築かれていた高塚を持たない前方後方形の墓が高塚が採用されるようになったものである。しかし、四世紀後半になると忽然とその姿を消してしまふ。僅か一世紀の消長である。だからと言って、全国の前方後方墳が一斉に姿を消してしまった訳ではない。畿内ではその後も少数ではあるが築造されるし、島根県などのように古墳時代全般を通じて継続する地域もみられる。

では、なぜ東国において前方後方墳の消滅という事態が起こったのであろうか。それは東国が完全に前方後円墳体制に組み込まれた証左と理解されるのである。前方後円墳体制とは、前方後円墳が出現する以前に各

地域で採用されていた様々な墓制が、前方後円墳築造という祭祀体制に統合されたことを意味する。

最古の前方後円墳は、邪馬台国の女王卑弥呼の墓ではないかとも考えられている。奈良県の箸墓古墳と考える人が多い。それが正しいとすると、卑弥呼は西暦二四八年に亡くなっているから箸墓古墳の時期は三世紀中頃から後半ということになるのか。箸墓古墳の出現イコール前方後円墳体制の始まりであり、初期大和王権の誕生である。

これを嚆矢として前方後円墳体制は徐々に各地に浸透していく。各地域がこの体制に統合されていき、大和王権の支配権は次第に拡大していった。弥生時代に各地で採用されていた墓制は一掃され、前方後円墳に特化される。その結果、東国では四世紀後半までには前方後円墳体制がほぼ確立され、それ以後の前方後方墳は存在しなくなるのである。

美作地域には、前方後円墳五〇基、前方後方墳一〇基が確認されている。これ

らはすべて古墳時代に属するもので、東国のように前方後円墳に先行する前方後方墳は見られない。埋葬施設には竪穴式石室が、副葬品には銅鏡や土師器などが採用されるなど前方後円墳と前方後方墳の埋葬のあり方に極端な差異は認められないのである。さらに、墳丘の築造企画においても畿内の大王墓との相似形として理解されている。このような状況は北房地域の古墳にも当てはまるものである。

【註】 前方後円墳体制に組み込まれた中であって、墳形だけは前方後方形に固執した理由は何なのだろうか。筆者は

記紀にみられる出雲の国譲り神話を思い出さざるを得ないのである。高天原の神々が地上に天降り出雲の神々に支配権を譲るよう何度も交渉する。その結果、最終的に大国主命は天照大神に国を譲ることに

合意した。そして、国譲りの条件として高い建物を建ててほしいと要望し、完成したのが出雲大社であるという物語である。

中央の権力が地域を平定していく過程では、少なからず抵抗する勢力があるのは自明の理である。前方後円墳体制化が国譲りであり、高い建物・出雲大社の建設が前方後方形の容認と重なるような気がしてならない。最後まで天つ神に抵抗した出雲の国つ神の反骨精神こそが古墳時代をとおして出雲地域に前方後方墳を存続させた理由の様な気がしてならない。

なお、前方後円墳体制下における最も古い前方後方墳は、現存長六三mの奈良県ノムギ古墳で三世紀代と考えられている。そして最大のものは同じく奈良県の西山古墳で一八〇mを測る。この数値だけをみると前方後円墳と遜色ないように思われるが、地域ごとに両

者を比較してみると前方後方墳の方が前方後円墳に比べて圧倒的に小規模である。この規模の違いを権力の差と捉えらるるならば、前方後方墳の被葬者より前方後円墳被葬者の方が優位性を保っていたということではできよう。

【註】 澤田秀美 2023 「美作地域の首長墳」『新修津山市史 通史編「自然風土・原始・古代」』津山市

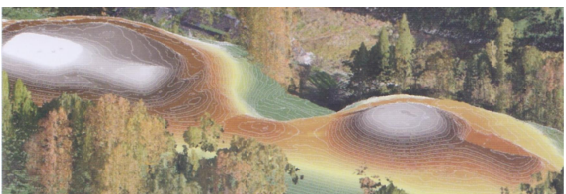
※ ガイド養成講座当日、畦田会長に寄稿を依頼され、急遽思いつくまに筆を走らせた。識者の御叱正をお願いする次第であります。

入会のすすめ

※ 令和七年度の会員を募集しています。私たちと一緒に「西の明日香村づくり」に取り組んでみませんか。

年会費

正会員 三〇〇〇円
賛助会員・大学生 一〇〇〇円
高校生以下 五〇〇円



【荒木山東塚古墳(左側)と荒木山西塚古墳(右側)】

台北市の葬儀の変化②

高松市

稲田 道彦

二一九九二年の
台北市殯儀館

まず一九九二年当時に感じたことを書く。早朝六時くらいに台北市内の幹線道路の三車線の車道のうちの一車線を一部封鎖して、道路上にテントがたてられる。臨時の葬儀場である。葬家の近所の人の告別を期待している。弔問客の死者への丁寧な哭礼のたびに、楽隊のファンファーレが鳴る。七時頃にはテントが撤去され、臨時葬儀場は消滅する。その後遺骸は市内の殯儀館の葬儀場に運ばれ、そこで正式の葬儀がなされる。儀式の中に哭き女の習俗があり、私が見た当時には本物の哭き女を見ることはできなかった。録音テープによるパフォーマンスがなされていた。テープレコーダーからは哀切な声が出され、一人の婦人が棺に抱きついて悲しむのである。

【臨時の葬儀場（一九九二年）】



「お父さん、私を残してなんで死んだのよ」中国語の分からない私が、その言葉が分からないままに涙が出てきたほど、悲しみの感情が伝わってきた。死者を惜しむ感情表現は拔群であった。芸術的ともいつてよかった。死者の霊が極楽に行くためにいくつもの儀礼を繰り返す。五子哭墓という靈魂を極楽に送るための音楽と踊りによる民間習俗も行われる。僧侶による読経もあった。この時、別の部屋にはステレンスの解剖台のような台の上に、死に衣装の遺骸が並んでいた。

これは本日の葬儀のために冷蔵庫で数ヶ月間、葬儀を待っていた死体だと教えられた。葬儀をするのに最も良い日が探され（占われ）、決められ、数ヶ月は保存されることもあると言われた。これを支えているのは、風水という考え方である。町の中にも人の顔に漢字を書き込んだ、風水師の店の看板を見かけた。風水師は死者や家族の生まれた日や時間、生まれた場所の方角、同じく死んだ日や時間、場所をもとに占いをする。羅経盤という、中心に磁石が組まれた、円形の何層もの板が回るように作っており、この文字盤を回して、死者と残された人にとって葬儀や墓にとつて最適な日時と方角を占う。また墓の向く方角や葬列が出る時に向かう方角なども占われる。

葬儀に参列者が多いことは死者の徳を高めることにつながる。遺族が死者を思っている気持ちを量る指標としてとらえる。弔問者を多く集める徳の高い死者は子孫を幸せにするマジカルな力を持つ。それゆえ近所の人を早朝に招いたり、葬儀場にカラオケルームや麻雀場を設け、人を多く集めることに努める。極端な例として、台湾中部の台南市では、葬儀の前座でストリップショーがなされていた（実際には見なかったが、殯儀館の注意書きに、このことを禁止すると書いてあった）。大勢が参集する葬儀のために、知恵をめぐらす姿に中国人の葬文化の奥深さを感じた。この時、台北市内を案内してくださった台湾師範大学の珍憲明先生に聞いた話である。

「台湾南部農村で日本へ輸出するウナギの養殖が盛んになった。もとは水田であった養殖池に地下水を汲み上げるため、地盤沈下が起こった。田の中にあつた、盛り土の丘の上にある墓地が水没しかかっていた。墓地を移転したらという問いかけに、『今のウナギ養殖による繁栄はここにいる先祖のおかげである。これを移転するなんてとんでもないことだ』と言われた、と聞いた。」

墓地に存在する先祖の霊力は子孫を幸せにする力があると信じられていた。死者に対する投資は全て生きている人の幸せとなつて返ってくると考えていたのではあるまいか。これほどまでに死者の葬儀や墓地にこだわる文化を形成してきた。台湾の葬儀の複雑さを誘う要素に宗教もある。当時葬儀の芯をなす宗教は道教と仏教であった。道教は中国人が形成してきた宗教で、私の眼には、いろいろな思想が複合し、まじないや迷信の要素も含む複雑な体系を持つ宗教に映った。道教では土葬が主流であった。そして一定期間がたつた後、洗骨改葬する複葬でもある。先に述べた葬式を待ったためによつていた。陰陽五行などの思考から来る葬儀に良い日・良い時間、そして自分が産まれた胎内（先祖の墓のある故地）に再び還るための、方角などの指針が示され、葬儀の時日を持つのである。一方仏教では火葬がなされ、道教に比べると簡素な印象を与えた。道教式にするか仏教式にするかは遺族にとつては重大事で、出費の額が違った。経費を払う遺族は仏教式を

望み、死者の徳の恩恵を受ける可能性のある遠縁の遺族は道教式を望んだと聞いた。一九九二年当時は道教式のほうが多い印象であった。道教式にするか仏教式にするか判断のつかない遺族は、死者の腕をつかんで持ち上げて、道教と仏教の二つの札を並べた上に落とし、死者に選ばせるということもしたという。そういう場合は仏教になることが多かった、という。

遺族の衣装も仏教と道教では違っていて、道教では直系の遺族ははだしで、荒縄の鉢巻きや腰ひもをし、麻布の簡単な衣装をまとい、死者を悲しんで送っているという衣装であった。仏教ではそこまで死者を悼むことを衣装では表さず、白衣であった。

さらに台湾では出身地による差異があった。主に中国南部から古い時代に渡ってきた本省人と、第二次世界大戦後に蒋介石とともに大陸から渡ってきて、台湾政治の中枢についた外省人の違いである。大雑把にいうと、本省人は道教式であり、外省人は風水等をあま

り重んじなかった。外省人には死後、中国本土の出身地の祖先の墓に合葬されることを願うために、より簡素な形に葬式や墓を収める人もいた。

墓の形もいくつかの形があった。道教では主に複葬をし、仏教では火葬骨を納める単墓制となった。複葬は最初に土葬により埋葬した遺体を一定の時間経過後掘り起こし、遺骨を返子等に納め、寺や慰霊塔など崇拜施設に安置する。そして墓の向く方角を大事にするから、墓地の中でも墓が思い思いの方向に向いていることがあった。私が何度も訪ねた、台北市第二殯儀館



【台北市第二殯儀館全景(1992年)】

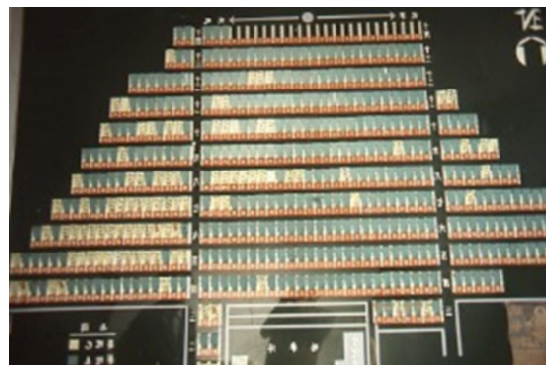
は谷の出口にあり、背後は谷を挟む丘陵であり、谷の斜面ではどの方向を希望する墓にも対応できたので、谷の全方向の斜面に土葬墓地が作られていた。旺盛に繁茂する樹木の中に亀甲墓形式の土葬墓地があった。



【尾根斜面を埋める土葬墓(1992年)】

陳憲明先生に案内していただいた、新北市永和区第一墓地では完成して一〇年近くなるが売れている墓地が一〇分の一と言われた。それは人々（主に本省人）が墓の方角を重視するので、雛壇式の新規造成墓地では、一つの方角しか向いていないので、もっぱら、この墓地を買うのは風水を重んじない外省人の利用が多いと言われた。

【新北市永和区第一墓地】
(明るい色が売却済、
一九九二年)



(香川大学経済学部名誉教授)
(次回に続く)

※以下、三章「現代の台北市殯儀館」、四章「おわりに」は、次号に。

北房ふるさとセンター
「記念特別展「すげーのー、谷尻遺跡」
では期間中二〇〇名
を超える来館者があ
りました。ありがと
うございました。

(館長 南條靖)

「谷尻遺跡発掘
思い出話」を聴かせ
ていただきました。

岡山市

延原泉

去る一月二四日、北房文化センターでの高畑知功先生による「谷尻遺跡発掘」五〇周年記念講演会」を聴かせていただく機会に恵まれた。

発掘調査に直接携わられた先生のお話は、五〇年たってもあせることのない熱い思いと詳細な記憶が、丁寧でたくさん資料とともに伝わってきて、引き込まれ通しの、あつという間の時間だった。

当初、とりあえず二人で始まった発掘調査が、試し掘りの段階から「すごい、大きい、大変な遺跡だ」という予感から、延べ七三〇〇人を投入しての調査となったこと。予算が無く、電気も通じていない部屋での生活の苦労話など、思い出話という言葉ではくくりきれない、正に調査報告そのものだったように思う。中でも「遺跡は壊すもの。



【畿内系土器】

残すのは写真と記録」という言葉が忘れられない。道路工事があるから、土地の開発があるからというような理由がないと発掘調査ができないことは、致し方ないとは思いますが、もったいないことと思ってしまう。約一一、三〇〇年前から始まった谷尻遺跡。土器や石器など多数の出土品が『谷尻式』と命名されていることは、今回初めて知ったことの一つである。縄文の時代から人々はこれらを使っていたのを、何を食べ、どんな暮らしを営んでいたのだろう。そして、一緒に出土した近畿（大和）や山陰（出雲）、四国（讃岐）の土器。人や物の流れ、文化の結節点としての北房の意味。想像するとわくわくすること

がたくさんある。更に、備中川の氾濫や火事にあつた住居、何代にもわたる積み重なった住居跡、^{しづ}る家・・。素人には、あの土を掘っていくだけで、何故そんなことが分かるのだろうかという素朴な疑問もある。たくさんの方が判明する、判明させられる、発掘調査の意義を改めて感じている。備中北部最大の集落遺跡、谷尻。そこで暮らした市井の人々も地域を治めていたであろう有力者も、もしかすると石川王？も、全ての人が今の北房に続いている。今回、北房ふるさとセンターで開催されている特別展は『すげーのー、谷尻遺跡』だが、この講演を受けて抱いた私の感想は、正に『すげーのー、北房！』に尽きる。そしてもう一つ、今後この遺跡と、私を北房に導いてくれた荒木山の古墳群に何らかの関係性が明らかになったら、なんて素敵なんだろうと密かに思っている。

余談ながら、この日は岡山市民文化大学の本年度最終日。往年の青春スター（死語ですか）中村雅俊さんの



講演を聴く予定だった。彼が「ふれあい」で歌手デビューしたのは昭和四八年。奇しくも谷尻遺跡の発掘が始まった年である。当時小学六年生だった私が初めて自分で買ったレコードが「ふれあい」だった。同じ五〇周年。どちらの会に参加するか。躊躇することなく、北房を選んだことへのご褒美、「青い巴ちゃん（巴型銅器）」との出会いに気をよくし、自分を褒めながら、北房文化センターを後にした。



【巴型銅器】

講演記録 谷尻遺跡発掘五〇周年記念講演 （その①）『谷尻遺跡発掘思い出話』

平城 元

令和六年一月二四日
（日）、北房文化センターで、西の明日香村コンソーシアム主催の、谷尻遺跡発掘五〇周年記念講演が開催されました。講師は、元岡山県古代吉備文化財センター所長で、五〇年前に谷尻遺跡発掘調査をただ一人だけ全期間を通じて担当された高畑知功先生です。

「谷尻遺跡発掘思い出話」と題してのご講演内容は、実際に経験したからこそ話せる逸話や苦労話、そして五〇年という時を経て、おそらく地元住民が始めて知る谷尻遺跡の全体像、さらにこの遺跡が持つ歴史的な位置付け等に関して、極めて興味深いものでした。当日は市内外から七五名の参加があり、熱心に聞き入っていました。

四月、そして第三次調査が六月に実施されました。発掘場所は、中国縦貫自動車道建設予定地に沿って、西は旧^な道^の谷尻線付近から東は中田原線までです。作業は西側の一区から東端の六区まで、区割りを行われていきます。五区の南側が後述する萩原工業（株）付近に相当します。

北房と有漢の境界となる南側の山から徐々に低くなり、備中川に近づくこと「低位^{だいち}台地」になります。発掘現場は、この低位台地と備中川の間に形成された氾濫^{はんらん}原（洪水時に河道から氾濫する範囲）である「低地」から成っています。一、二、三、五区が低位台地、六区が低地です。四区は西谷方向からの谷筋で、氾濫原にあたる区間です。

当時の中国縦貫自動車道建設に伴う発掘現場としては、旧北房町内とその付近では、東から旧落合^{おちあ}町^の色の「宮の前遺跡」、五名の

「備中平遺跡」、上水田の「谷尻遺跡」、下皆部の「桃山遺跡」、「植木遺跡」、「空遺跡」などがありました。以上の概要をもとに、以下、少し紙面をいただき、講演内容を順にたどっていきしたいと思います。なお、（ ）内は筆者による補足説明です。

谷尻は、出版物等では一般に「たにじり」とあるが、当時、地元作業者にアンケートをとり、「たんじり」と呼ぶこととし、報告書のタイトルもルビをふり、「谷尻遺跡」とした。

谷尻遺跡の発掘は、中国縦貫自動車道建設に伴うもので、遺跡を残すことはできないため、写真と図面と説明文で記録し保存することを目的とする調査であった。

この自動車道建設に伴う岡山県内の同様な発掘は、六〇力以上（六二一カ所）あり、東側から数えると（最初は、旧作東町の高木遺跡）谷尻遺跡は三〇番目になる。県内全体としては、昭和四四年から五二年まで、足かけ八年に及ぶ長期の発掘調

査で、岡山県教育委員会文化課が担当した。

谷尻遺跡の場合、萩原工業（株）の北側にある桑畑に弥生土器と古墳時代の土師器が散布していることは以前から知られていた。

昭和四八年から試掘を始めた。調査は西の端の谷尻線から東の端の中田原線まで、長さ約六〇〇m、幅約四〇mの範囲である。

（第一次調査の）三ヶ月間の作業によって、ここは大変な遺跡になることが予想された。しかし、昭和四

九年度からの本格調査では、二名の調査員、期間は一年間で終了する予定となっていた。期間の延長はできない中で作業を進めていくと、次々と遺構が出てくるため、同年十一月頃作業員を増やすことにした。その頃、備

中平遺跡の作業が終了しており、その作業員一五名と、県の文化課職員にも可能な範囲で加わってもらったが、結局一年間では終わらなかった。

この段階で予算が尽きたため、県職員の新



【押型文土器】

人を送り込んでもらったが、昭和五〇年四月から六月の終了まで、電気も水もないプレハブ小屋でろうそくを灯しながら仕事をした。

調査日数は実働三四六日、作業員は延べ七三一二名に及んだ。この遺跡から二八三の遺構、遺物は四〇×七〇×一五cmのテンバコ、約二六〇箱分が出土した。実際に発掘した面積は一四四一㎡であった。真庭市内では最大の発掘調査面積であろう。

以下、時代を追って説明していく。縄文時代は早期、後期、晩期の土器が出土している。早期の土器は、約九五〇〇年前のもので、米粒が並んだような文様がある。粘土が生乾きのとき、器具を使って模様を付けた土器（押型文土器）である。なお、前期の土器は谷尻遺跡からは出ていないが、上

水田の洞穴（地蔵ヶ淵）から人骨とともに出土しており、約六九〇〇年前のものとされた。最も多くの出土があったのが縄文晩期であり、約三五〇〇〜三〇〇〇年前の土

器片四五点とともに石器が六〇点まとめて一カ所（一区、No.一三〇土坑）から出土した。

石器は、備中川の河床などにもある緑色片岩で作られた石剣、その他の石器（スクレイパーまたは石鎌とも呼ばれるもの）は、サヌカイトと呼ばれる讃岐石で作られている。岡山県下で出土したサヌカイトの大半は、香川県坂出市の金山（金山の東斜面）産といわれている。この石器の刃先は真っ黒になっていた。当

時はそれが何かということとは分からなかった。その後、プラント・オパールと呼ばれるガラス質の珪酸体（植物の表面細胞にある物質で、イネ科などに含有量が多いとされる）であることが分かった。したがって、これを分析すれば、この石でどんな植物を切ったのが判明するそうである。

当時、「縄文農耕」という言葉が流行っていた。縄文晩期にこの地域で稲作をしていた証拠はないかと、出土した土器で穀殻の痕跡を詳細に調べたが確認できなかった。

弥生後期の土器片も出土している。岡山市の高塚遺跡の貯蔵穴などから、計二五枚の貨泉が出土している。貨泉は、前漢と後漢の間にあつた新という時代の王莽という王が制定した貨幣である。西暦一四〇四年の間に鑄造された（円形方孔）貨幣で、弥生後期に伝わったものと推測されることから、この遺跡の土器と比定することにより、谷尻遺跡から出土した土器を弥生後

期のものと推定できる。（以下、次号）

追悼

松木武彦 先生

荒木山西塚古墳の発掘調査にワーキンググループ（専門家の座長として何度も発掘の現地を訪れ、専門的な立場から支えて下さった国立歴史民俗博物館教授の松木武彦先生がお亡くなりになりました。謹んで哀悼の意を表しますとともに心よりご冥福をお祈り致します。